

平成30年度和歌山県文化賞

こばやし ねんじ 小林 稔侍 (本名 小林 としじ 稔侍)

住 所 東京都渋谷区
出 身 地 和歌山県伊都郡かつらぎ町
生 年 昭和16年

◎ 業績及び経歴

昭和34年に和歌山県立笠田高校普通科卒業後、映画の道を志し、上京。東映第10期ニューフェイスに合格、1年間の養成期間を経て、昭和37年に東映に入社。昭和55年からは、鈍牛倶楽部に所属。

昭和40年に映画「地獄の波止場」でデビュー。以後、任侠映画を中心に脇役として活躍。特に深作欣二監督の「軍旗はためく下」(昭和47年)、「仁義なき戦い」シリーズ(昭和48年～49年)で活躍する。

昭和53年映画「冬の華」の板前役を好演、以来、映画、テレビドラマで活躍。昭和61年には、NHK連続テレビ小説「はね駒」で実直な父親役を演じ、一躍名を高め、昭和62年映画「夜汽車」では日本アカデミー賞優秀助演男優賞を受賞。

平成2年には、テレビドラマ「なんでも屋探偵帳」で初主演。このほかにも平成10年から現在まで続く人気シリーズの「税務調査官・窓際太郎の事件簿」など、多数のテレビドラマの主演も務める。

なかでも、平成12年には、大部屋時代からの恩人高倉健主演の映画「鉄道員(ぼっぼや)」で日本アカデミー賞最優秀助演男優賞を受賞し、日本を代表する映画俳優としての地位を固めた。

また、映画「学校Ⅲ」(平成10年)以降、「たそがれ清兵衛」(平成14年)、「東京家族」(平成25年)、「母と暮らせば」(平成27年)など山田洋次監督作品に多数出演している。

俳優活動の傍らで、平成23年からはかつらぎ町観光大使を務めるなど和歌山に対する思いも熱く、その貢献は図りしれない。

さらに、平成30年には「星めぐりの町」で76歳にして映画初主演を果たすなど、スクリーンやテレビの世界で活躍してきた氏は、悪役から寡黙な父親役さらにはユーモア役まで幅広い役柄をこなし奥の深い演技で人々を魅了し続けており、その姿は本県の誇りである。

■ 現 在

・俳優

◆ 主な表彰歴等

昭和62年 「夜汽車」日本アカデミー賞
優秀助演男優賞

平成元年 和歌山県文化奨励賞

平成12年 「鉄道員(ぼっぼや)」日本アカデミー賞最優秀助演男優賞

平成14年 「ホタル」日本アカデミー賞
優秀助演男優賞

平成25年 橋田賞